



発行：三郷町まちづくり委員会 恵那市三郷町佐々良木 1839 番地 4 電話 0573-28-1001 (三郷振興事務所内)
URL : <http://misatohp.webnode.jp/> E-mail : 3satotyou@gmail.com

昔から三郷のひな祭りは四月三日。今年もその日がやってきましたね。華やかに飾っておられる家庭もあることでしょうか。

みなさんのお宅には「土雛」はありますか？五十年ほど前まで、土雛は日本各地で作られていました。特に陶器産地の東濃地方から愛知県三河地方にかけては、農閑期の収入源として人形の絵付けをする農家も多く、ひな祭りの前になると、籠に土雛を入れた行商が村々を回ったそうです。

お内裏様とお雛様、八重垣姫、藤娘、布袋様、天神様、桃太郎、浦島太郎、那須与一……。表情豊かで素朴な土雛は子どもたちの宝物でした。

高度経済成長以降、衣装雛の豪華なひな飾りが人気となり、土雛を買う人は激減。土雛を作る人もわずかになりました。

これれやすい土雛は、年々その数を減らしています。

その土雛が再び注目されています。町おこしや村おこしでひな人形を飾る自治体が増えましたが、特に人気なのが、手作り感たっぷりの伝統的な土雛だそうです。



三郷のひな祭りに欠かせないのが伝統的なお菓子「からすみ」です。それぞれの家庭のレシピがあり、プレーンタイプ以外にも、黒糖、赤じそ、くるみ、干しブドウなどの入ったものもあります。子どもたちが家々を回ってもらってくるからすみを食べ比べるのも楽しみです。子どもたちははからすみよりもお菓子の詰め合わせのほうが楽しみかもしれませんね。

この日は、よそに住んでいるお子さんやお孫さんと呼ばれる方もみえるでしょう。三郷全体で子どもたちの健やかな成長を祝いましょう。

「土雛」と「からすみ」でひな祭り

すてきな出合いを婚活パーティー



十二月十四日、第三回目となる「三郷 de 婚活パーティー」をおこないました。

年末の開催ということで、「クリスマスは二人で」をキヤッチコピーに募集をしたところ、市内外からたくさんの方にご参加いただきました。



そば打ちをしながらの談笑、ビンゴゲームなど、雪がチラホラする中での開催でしたが、参加のみなさんは楽しく楽しいひとときをすごしていただきました。最終的には三組のカップルが誕生しました。これからの成り行きを見守りたいと思います。

三郷のええとこ撮ってみらっせ！三郷町フォトコンテスト

【応募締切日】 2015年9月30日(水) 三郷の美しい情景を写真にしてみませんか
【各賞・賞品】 特選(1点):賞金3万円&副賞 準特選(2点):賞金1万円&副賞
入賞(5点):賞金5千円&副賞 特別賞(5点):副賞 【応募・問い合わせ先】
三郷町まちづくり委員会
【応募作品】 サイズ: 4つ切り, 6つ切り, A4 「三郷町フォトコンテスト」係
【発表】 2015年10月中に入賞者へ連絡。ホームページに掲載。 TEL: 0573-28-1001
【表彰式】 2015年11月の三郷町文化祭を予定。

【編集後記】

▼三月の季節外れの雪に驚きました。今年も春はやってきました。近所の家々を回って袋いっぱいにお菓子を集めた子どもを思い出しながら、わが子のためにひな人形を並べています。

▼今年も母は孫たちに「からすみ」づくりを手伝わせるようです。ふるさとのよき伝統が受け継がれていくことを願いつつ、この先、三郷のひな祭りはどうなっていくのだろうと考える時があります。

▼わが家は、受け継いだ田畑や山林は、この先どうなるのか。地域の行事、学校、寺社、インフラは維持できるのか。問題は山積ですが、解決を子や孫にゆだねないようにはしたいと思います。

▼広報紙「とれたて」、一年間ご愛読ありがとうございます。

空き家・売地情報募集中!

皆様のご近所に空き家はありますか?三郷町は自然豊かで、ゆるやかに開けた農村景観が美しい地域として、田舎暮らしをしたい人たちにはとても魅力ある場所です。しかし、移住したいという需要に対し、住み移れる空き家が少なく、農業振興地域の整備に関する法律(農振法)にかかっている農地が多いためすぐに貸し売りできる土地の数は足りず、人口減少対策に反して住民を増やすチャンスと泣く泣く見逃しています。総務省の「二〇一三年住宅・土地統計調査」によると、同年十月時点で全国の住宅の一三・六%、八二〇万戸が空き家という実態で、それ以後も増え続けてい

ます。空き家付近の治安・景観劣化が深刻になり、放置され倒壊しそうな法的に問題のある空き家の処置に対して、市町村の権限を強化するため、政府は昨年十一月に「空家等対策の推進に関する特別措置法案」を成立させたほです。三郷町では都会ほど空き家が住民に害を及ぼすというケースをあまり聞きませんが、三郷町も人口減少や高齢化が進み続けており、家主がいない住宅は増えていくのは避けられません。そんななか、どうして空き家は市場に出てこないのか少し検証してみました。

刈りなどの手入れをする管理型、②残された仏様や荷物はそのままでお盆の時だけ親族が集まる別荘型、③相続者が見つからず廃屋になる詳細不明型、④空き家を直す・壊す(粗大ごみを片付け処理する)費用がもったいないので朽ちるのを待つ自然劣化型、⑤知らない人に貸したくないから空き家のままの保守的型、などにわかれました。最後に、⑥空き家が出てきたら、町内近所で噂が口コミで広まり、市場に出る前に家主の知人が間髪を入れずに借りたり買われるラツキ型もあります。

管理者型と別荘型、そして保守的型の空き家に関して、近くには、空き家を管理してくれる方がいることがとても重要です。

家の健康を保つには光と風通しが必要となり、頻繁な管理は家の寿命を延ばします。



【おことわり】この写真は空き家問題についてのホームページから借用したもので、三郷町内の空き家ではありません。

最後のラツキ型は、物件が空き家になる前から大家さんに興味がある旨を伝え続けたり、地域の人に「空き家を探している」と言葉と顔を広げてもらえてタイムミング良く物件が見つかったりするケースです。

このように最低でも六種類の空き家が三郷町に何件か存在しています。詳細不明型と自然劣化型以外の空き家は近くに管理者がいるがゆえに、空き家でも賃貸されることなく残っていられます。しかしこのような恵まれた環境であるがために実際空き家があっても他人に貸し出すまでに至らない経緯ができてしまい、移住者が増えないのが現状です。

果たして将来親族はいつまで管理を続けてくれるのでしょうか?近い将来、人口減少が大変進んでしまふ廃屋が並び閑散としたゴースト

三郷の魅力再発見 交流会

十一月九日、まちづくり交流会「縁あって三郷町民になられた方々との語らい」が開催されました。この数年の間に三郷町に移住された方々、そして三郷町に移住を希望してみえる方々をお招きして、三郷町についての客観的なご意見を頂戴しました。三郷の魅力と課題、そして問題解決のヒントが見えてきた有意義な会になりました。

会場の「あんじゃないの家」には、総勢三十五名ほどが参加し、質問とトーク方式で会が進みました。

三郷町を住む土地に選ばれた理由はそれぞれですが、里の景観の美しさや、田舎すぎず町すぎない感じ、学校に徒歩で通えること、高速道路

や鉄道のアクセスの良さ、名古屋市とのほどよい距離など、移住地としての要件の良さは共通していたように思いました。そして何よりも三郷の人たちの他者を受け入れる人柄が良いということでした。その反面、地域ならではの行事にはもう少し効率化も必要、などの意見が出されました。



トークの後にはテーブルを囲んで、焙煎家の淹れたおいしいコーヒーを飲みながら、楽しく交流をしました。

三郷町は地域の関わりがとても密なため、近所の誰かは大抵の家族構成をご存知であり、詳細不明型の空き家はほんのわずかです。そして自然劣化型の空き家が害を及ぼさず存在できる理由は、土地が広く住宅がひしめいていないからと思われ、近隣と程良く距離間があり、田畑に囲まれた生活環境で人口密度が低いため、空き家が放置されていてもあまり不法滞在や犯罪などに悪用されることはありません。そのため建物が朽ちていても周辺の景観を損ない環境や衛生面を悪化するのとは異なかく、安全面で近隣に迷惑がかかるということはありません。